帯　広　畜　産　大　学
プレス発表資料　OBIHIRO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND VETERINARY MEDICINE

平成２５年９月１９日

任期満了に伴う次期帯広畜産大学長候補者の決定について

現学長の任期が本年１２月３１日で満了することに伴い，９月１７日に投票による学内教職員の意向聴取を行うとともに，９月１９日に学長選考会議を開催し，次期学長候補者を下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

記

氏　名：長澤　秀行

現　職：国立大学法人帯広畜産大学長

任　期：平成２６年１月１日～平成２７年１２月３１日

資　料：学長候補者の履歴及び業績の概要
　　学長候補者の決定にあたって

【問い合わせ先】
帯広畜産大学経営管理部
総務課長　野並　雅章
TEL：0155-49-5213

別紙１

学長候補者の履歴及び業績の概要

（ふりがな） 氏　　名	ながさわ　ひでゆき 長　澤　　秀　行
生年月日	昭和２９年（１９５４年）　１０月　１６日生（５８歳）
現職	帯広畜産大学　学長
履歴の概要	学歴 昭和53年３月　帯広畜産大学畜産学部獣医学科卒業 昭和55年３月　帯広畜産大学大学院畜産学研究科修士課程修了 昭和59年３月　徳島大学大学院医学研究科博士課程単位取得退学 昭和59年11月　徳島大学大学院医学研究科博士課程修了 職歴 昭和59年４月　徳島大学医学部助手 昭和61年５月　米国・ケースウエスタンリザーブ大学研究員 ～昭和62年３月 平成３年11月　徳島大学医学部講師 平成５年11月　徳島大学医学部助教授 平成７年７月　帯広畜産大学原虫病分子免疫研究センター教授 平成13年４月　帯広畜産大学原虫病研究センター長 平成14年２月　帯広畜産大学副学長（教育学生担当） 平成16年４月　帯広畜産大学理事・副学長（総務研究担当） 平成20年１月　帯広畜産大学学長（現在に至る）
業績の概要	学位 獣医学修士（帯広畜産大学）昭和55年３月19日 医学博士（徳島大学）昭和59年11月９日 学術論文（代表的なもの３点） Induction of heat shock protein closely correlates with protection against *Toxoplasma gondii* infection. Nagasawa, H., Oka, M., Maeda, K., Chai.J-G., Hisaeda, H., Ito, Y., Good, A. and Himeno, K. Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 89: 3155-3158, 1992. 「食を支え、くらしを守る」国際水準の人材を育成する　長澤秀行　文部科学教育通信　232: 4-9, 2009. 個性輝く大学づくり　長澤秀行　大学マネジメント　6(2): 17-21, 2010. その他（受賞歴，所属学会等） 日本原生動物学会賞（平成13年11月） 日本寄生虫学会評議員（平成５年４月～現在に至る） 日本獣医寄生虫学会評議員（平成10年４月～現在に至る） 日本獣医学会評議員（平成14年４月～現在に至る）

別紙２

学長候補者の決定にあたって

（ふりがな） 氏　　名	ながさわ　　ひでゆき 長　澤　　秀　行

就任から現在に至る間、国立大学を取り巻く状況は、運営費交付金の削減、大学評価の在り方再検討、コンプライアンス体制整備、国立大学の機能強化、ガバナンス改革、大学教育の事業仕分け、復興支援の名目による給与削減、国立大学法人評価結果に基づく運営費交付金の重点配分方針提示、ミッションの再定義等々非常に厳しく、予断を許さない情勢です。しかし、本学においては、十勝に立地した農学系大学という好条件を基盤に、着々と実績を上げており、特色ある大学づくりに高い評価をいただいております。小規模大学ならではの機動力のある大学運営が推進できていることは、教職員及び学生の総力に支えられた結果であると認識しています。

平成２２年にスタートした第二期中期目標計画期間が、折り返し地点を過ぎ、第三期中期目標計画策定に取りかかる時期となりました。直近の２年間では、共同獣医学教育課程開始、これに伴う国立大学改革強化推進補助金の採択、民間企業の寄付講座による研究推進、地域連携推進センターのインキュベーションオフィス設置、実務実習のための施設整備、国際協力プログラム（パラグアイおよびモンゴル）の実施などがあり、来年度からのユニット再編およびカリキュラム改編も進んでいて、本学は「帯畜大型グローバル人材の育成」に向けて着々と歩を進めています。

今回の学長再任への立候補については、引き続き２年間、学長の職務を継続し、政府あるいは文科省の動きを注視し、分析しつつ、本学のミッション達成に向けて舵を取ると同時に、推進力として汗を流すことは本学にとってプラスになるのではないかと考え、立候補した次第です。今回、３期目の学長候補として表明する所信は、前回と基本的に変わるところはありませんが、各取り組みの内容を充実させ、スピード感を持って具現化させるよう、２年間という決して長くない期間内、努力したいと思います。

本学のミッションは、「知の創造と実践によって、実学の学風を発展させ、『食を支え、くらしを守る』人材の育成を通じて、地域および国際社会へ貢献する。」ことです。本学が提唱する「帯畜大型グローバル人材」とは、「実学」「国際」「学際」の要素を備えた教育プログラムにより育成された人材です。「実学」とは、農家、企業あるいは社会の実情を把握し課題解決に向けて、自ら手を動かして知識と技術を学ぶことであり、「国際」とは、英語が堪能であることよりも、他地域の人々と信頼に基づくコミュニケーションを図ることができ、利己的ではなく他を思いやる心を持つ視野の広い素養を持つことであり、「学際」とは学術の新

領域を意味するとともに、自分の専門性を基盤としつつ「農場から食卓」の物の見方や、生産者から消費者の立場による物の考え方であり、更には、他人の意見を聞く耳を持ち、新しいアイディアやビジネス創出に対するチャレンジ精神を表します。学生は、農学、獣医学、畜産科学の知識・技術を学ぶだけでなく、教職員や地域の皆さんとのコミュニケーションを通じて切磋琢磨しながら、価値観が多様化したグローバル化社会の中で生き抜くための能力の涵養に努めるべきであり、大学は学生に対して、このような高い付加価値を与えるための教育研究環境整備に力を注ぐべきです。

大学の役割は教育、研究および社会貢献ですが、これらはそれぞれ別々に推進するものではありません。相互に連携させ、すべてを人材育成に向けて集約するものであると考えています。教育プログラムの充実及び実務実習のための施設設備の整備には経費を必要とします。文部科学省をはじめとする国の予算措置や、産学官連携による経済的支援が必要です。そのためには、本学の人材育成プログラムが社会に高く評価される必要があります。全国の産業動物医療に従事する獣医師を対象とした生産獣医療技術研修プログラム、食の安全・環境保全を理解して高い倫理観で企業活動を展開できる人材育成プログラム等の実績を活かし、社会人学び直しを一層推進し、獣医・農畜産分野の職業現場におけるリーダーとして組織を牽引できる人材を育成することも本学の使命であると考えます。また、十勝の農業関連企業・団体、国・地域の農業振興政策を支える公的試験研究機関等との豊富な共同研究・受託研究実績、十勝・帯広地域の学校教育・生涯学習支援や街づくり支援実績を活かし、我が国の農業を基盤とする産業競争力強化と活力ある地域づくりに貢献することも重要です。

本学のミッションを達成するために、大学の立地環境を最大限に活かし、本学の個性と特色を充分に活用し、国内外から多様な人材を受け入れ、実学を通して「帯畜大型グローバル人材」を育成し、輩出することにより、地域および国際社会へ貢献することに全力で取り組みます。